

問1 操法訓練の必要性について *訓練必要なし意見

- ・活用する場がない。火災現場が減っている。消防官の人たちだけで良いと思う。
- ・操法訓練より、火災現場や水防訓練が必要だと思う。(近年、風水害が多い)
- ・各班、月1回程度のポンプ等の操作方法の確認をしておけば良いと思います。
- ・あまりにも現実とかけ離れた訓練だと思う。
- ・現場ではあまり役に立たないと思う。
- ・仕事、家庭に負担がかかる
- ・大会ありきの訓練で団員への負担が大きすぎる。
- ・消防団としての活動は消火だけではなく、水害・土砂災害・迷い人捜索・防災啓発など多様であり、様々な研修や訓練が必要であるため、操法訓練だけに力点を置くのは適切ではない。
- ・現状の操法大会であるのであれば、続けるのは反対です。〇〇分団としては、操法によって、団員の士気、団結力の向上には繋がっているのですが、大会自体はいいものですが現代の火災現場にはそぐわない気がします。京都の団の操法大会であれば賛成です。
- ・対抗意識が芽生える。仲間意識も生まれる。
- ・操法に特化した訓練は必要ないと思います。
- ・実際の火災現場において、各分団、各団員が何を、どのように対応すべきかの実践に必要な訓練が役に立つ→操法ではない。また、多様化する災害に対応できる訓練も必要
- ・形式にこだわりすぎていて、本当の消防業務に役立つ所が少ない。(ex. 待機位置から開始位置への移動は、少しずれても特に問題ないと思うが、この動作だけでも何百回と練習する。)
- ・より実践的な訓練に置き換えた方が良いと思う。
- ・訓練は大事だが、コロナが落ち着くまでは必要ない
- ・操法大会に向けての訓練は必要がない。
- ・実際の消火活動と乖離がある。現場で役に立たない。各個訓練であれば別の機会でよい。選手以外の団員のスキル向上に繋がらない。
- ・必要とする根拠がない
- ・団がまとまるなどの精神論を語るより消防団員として必要な技術を習得したい。
- ・家族、会社への負担が大きい。
- ・メリットがない。
- ・実際の火災に不必要な動作が多い。実践に沿った訓練をした方が有意義。
- ・ただの競技、火災の訓練でない。
- ・操法内の動作が消火活動においてすべて必要かどうかという、そうでないと思う。必要な動作もあれば無駄な動作も多い。消火活動にいらぬ動作が多くある。消火活動において不完全なものを訓練と称してする必要はないと考える。
- ・一体感の促進と言われる方もいるが、消防団員の本分である消火活動に不完全な訓練を目標の1つとして掲げて、一体感の促進などできない。

- ・通常訓練の中で技能の習得向上を図れば良い。
- ・操法の代わりとなる全分団が取り組めるような実践的な訓練が望ましい
- ・火災時に役に立たない
- ・大会に向けての訓練は、実際の出場では、あまり役立っていないと思う。近年はあまり火災現場に出る事も少なくなっているので、実際の現場の雰囲気や放水の圧力等、経験していない団員も多いので、放水までの手順や水圧の経験、又、現場で行ってはいけない危険行為等も考慮した、より実際の現場を想定した訓練は必要と思われる。
- ・年に数回消防団で合同訓練をすればよい。
- ・練習が辛い。大切な家族の時間がとられる。
- ・各分団で練習すれば良い。
- ・分団によっては、早い時期から訓練に入り、週一回の（日曜日）休日の団員には負担が大き過ぎる様に感じる。
- ・操法訓練の期間が長期になるため、仕事の都合上、集まって訓練するのがむずかしい。訓練の際のケガの問題もある。また夏に訓練するため熱中症の危険も大である
- ・実践に近い訓練を取り入れつつも、時代に合った新しい訓練に変えていくべきだと思う。
- ・兵隊の訓練みたいな事してもしかたがない。やるならどんな方法でもよいから早く水をとばし火を消す事。操法はパフォーマンスでもっと定期的な訓練した方が良いのでは。
- ・スピードは競いたくない
- ・大会のための訓練は主旨が違うのではないか。「頻度が多く大変そう」というイメージが、成り手のいない理由になっている。
- ・大会ありきの訓練で団員への負担が大きすぎる。
- ・消防団としての活動は消火だけではなく、水害・土砂災害・迷い人捜索・防災啓発など多様であり、様々な研修や訓練が必要であるため、操法訓練だけに力点を置くのは適切ではない。
- ・仕事や家族や趣味を犠牲にしてまで訓練をする必要はないと思う。操法訓練よりも林野火災を想定訓練の方が現実的であり、有事の際に備えることが出来る。
- ・資料にもあったように、実際の現場で必要な技能が身に付く内容に変更して継続。一部の人がだけがんばるのではなく、多くの団員がかかわるものに。
- ・団員の人数が少ない中、時間、人員の負担が大きく、それに見合う技術の習得もあまりないので必要ないと思います。
- ・操法を経験した身としては、消防活動の基本的なことを学べたのでやった意味はあったと思う。ですが、基本的なことを学ぶのであれば、もっと方法はあると思う。膨大な人員、時間をかけてまでやる必要性は無いと思う。
- ・操法と規律訓練より、防火のための実用性の高い講習や災害時に必要な訓練の方が良いと思う。
- ・働き方も多様化している時代に長時間拘束される訓練はあっていないし、家族との時間も犠牲にしてまで参加したいと感じない。ただし非常時に対応するための訓練は必要であると考えるので、短時間で効率的な方法を考えていただきたい。

- ・難しい問題です。ただこれが地域のためになっているのかと思います。
- ・資機材の使い方だけ理解していれば問題ないのでは。
- ・競争するより、1つひとつの技術の向上が大切だと考える。誰でも操作できるようにしておくべきである。訓練負担が大きすぎる。
- ・地域防災ではなく、一種のスポーツ化しており、本来必要でないレベルまで求められていると感じる。大事な税金の使い道として甚だ問題だと思う。
- ・会社（仕事）との時間の都合。
- ・時間がない、実用性に欠ける。
- ・やりたい人だけでやってください。
- ・実際の火災や災害に必要な訓練だと感じない。
- ・団員確保も難しい中で忍耐を必要とする行事は難しいのではないかと。訓練の必要性もないとは思わないが、実際の現場で役に立つか疑問である。
- ・毎年毎年、実施する必要はないと思う。希望の分団だけでやれないものか。
- ・訓練のため、休日がなくなり、家族サービスができないのは良くない。
- ・訓練への強制参加は時代錯誤！操法訓練は廃止すべき。
- ・練習が過度となり、出場する団員も仕事や家庭を持っている。週何日かの練習は負担が大きい。
- ・操法選手も自分の番手だけであり、そこだけの基礎を学んでいる。
- ・現状は操法に特化しすぎであり、操法以外にも何があるか、何があったか思い出せないほど重圧になっている。
- ・実際の火災現場で必要性を感じない。
- ・全員がポンプを使えるような訓練をした方が良い。
- ・放水にあたって、安全に水を出す訓練をした方が良い。
- ・毎年は必要ないと思いますが、数年に一度、操法の講習会などで良いと思う。
- ・操法の一連の流れが、実際の火災現場において、あまりマッチしていると思えないので、必要ないと思う。ただ、部分的にホースの持ち方や伸ばし方、ポンプの使い方、合図の仕方など、消火作業に必要な動作を抜き出して、少人数で回数をこなすような訓練をすることは、団員のスキルを上げる意味では有効かもしれない。形式は必要ないので、実際にやることになるかもしれない事を想定した訓練をすることを考えてほしい。